

# 業務用ナバナの有望品種選定

## ～ 有望な2品種を選定 ～

### 1. はじめに

食用ナバナの業務向け出荷は、収穫物が軽量で、出荷作業が簡易なことから拡大しており、現在約10haで栽培されている。しかし、実需者からは需要の高まる2月～3月中旬の安定した出荷が求められている。そこで、本研究では、高い収量性と2月～3月に安定的に収穫できる品種選定することを目的に、慣行品種（寒咲21号）を含めた5品種について播種時期別の収量および規格外品の発生程度について調査した。

### 2. 材料および方法

供試品種として‘CR花かんざし’（丸種種苗）、‘CR華の舞’（丸種種苗）、‘CR栄華’（サカタのタネ）、‘花娘’（サカタのタネ）の4品種に加え、対照品種として‘寒咲21号’（サカタのタネ）の計5品種を用いた。播種は2017年9月12日（定植日：10月10日）、9月26日（定植日：10月25日）に行い、畝幅100cm、株間35cmの一条植え（2,857株/10a）とした。

元肥としてIB化成を窒素量16kg/10a、追肥は定植30日後にNK化成を窒素量5.8kg/10a、2018年1月4日から20日ごとにNK化成を窒素量3.6kg/10aで施用した。収穫は2018年1月9日から開始し、2018年3月23日に終了した。

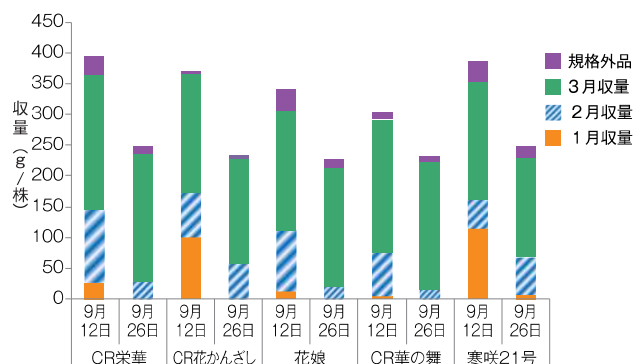


図1 品種および播種日ごとの時期別収量と規格外品発生量

### 3. 結果

#### 1) 規格品収量

規格品収量は「9月12日播種」の‘CR花かんざし’、‘CR栄華’で対照品種をやや上回った。また、全ての品種で「9月12日播種」の収量が「9月26日播種」より多くなった（図1）。

#### 2) 規格外品の発生

障害花の発生による規格外品の発生は、「9月12日播種」では‘花娘’以外、「9月26日播種」では全ての品種で対照品種より少なくなった。また‘CR花かんざし’で最も少なくなった（図1）。

#### 3) 時期別収量

収穫開始時期は対照品種で最も早く、‘CR華の舞’で最も遅かった（表1）。また、「9月12日播種」のすべての品種において2月、3月の収量が対照品種を上回った。特に、‘CR栄華’では2月に最も収量が多かった。

### 4. おわりに

以上のことから、収量が多く、規格外品の発生が少ない‘CR花かんざし’と、収量が多く、2月にも高い収量を得られた‘CR栄華’の2品種が有望であると考えられた。また、‘CR花かんざし’と‘CR栄華’は収穫開始時期が異なることから、品種を組み合わせることで計画的な出荷が可能になると考えられた。

（栽培部 橋本真明）

表1 品種および播種日ごとの収穫開始日

品種	播種日 (月/日)	収穫開始日 (月/日)
CR栄華	9/12	1/22
	9/26	2/10
CR花かんざし	9/12	1/15
	9/26	2/7
花娘	9/12	1/21
	9/26	2/11
CR華の舞	9/12	1/31
	9/26	2/22
寒咲21号	9/12	1/13
	9/26	1/27